

公的にも私的にも打ちのめされていた頃人間不信に陥りとある精神的な病気にかかってしまいました。
改善する為にアニマルセラピーとしてお迎えしました。
茶々は私のアニマルセラピーフェレットとして一生を終えました。

脾臓の摘出手術をして、脾臓の病理結果で根治が困難な悪性リンパ腫という事を私を知る前に、茶々は息を引き取りました。
きっと心配をかけると、回復してきた病気がまた悪くなると茶々は知っていたのだと思います。


会社帰りにふらっと立ち寄ったペットショップに茶々はいました。
巾着袋から出ては餌を食べて巾着袋に戻ったり忙しくしてしていました。
餌を食べるだけで、こんなに必死に忙しくしている、その仕草が可愛く見えてお迎えしました。

茶々は1才になるまではおてんばでした、噛み噛みしたり部屋の物を壊したり・・・でも1才を過ぎると大人しくなり、いつも私と一緒に寝てました。
朝目覚ましが鳴ると、茶々はムクッと起きて来て朝が弱い飼い主を起こしてくれました。
そんな芸が出来るフェレットは茶々ぐらいなんだと思います。

茶々と出会った事で、一緒にフェレットのイベントに参加したり公園を散歩したり、引きこもっていた状態から活動的になり、いろんな人と自分から話ができるようになり、
人を疑わない昔の明るい気持ちと活動的な自分を取り戻すようになっていきました。

今まで実態を知らなかった動物虐待の現状や飼育放棄の現状に気付くようになり社会の暗い部分を学びました。そして動物を飼う責任の重大さを学びました。

息を引き取ってから、お空に帰すまでは今までの人生の中でこんなに泣いた事があつたらうかというくらいに泣き続けました。
茶々にもっと恩返しをしたかったけど・・・
それも出来なくなった今は仕事を頑張り、精神的に強くなった姿を



お空から見てもらう事しか出来ません。

仕事中に心が折れそうになった時は、茶々にこんなぶざまな姿は見せれないと頑張れるようになりました。

茶々は私にいろんな大切なものを残していってくれましたね。

茶々は私と出会って果たして幸せだっただろうか？

手術に踏み切った私の事を恨んでないだろうか？ いろいろ思う事はあります。

でもまたいつかきっと会えるよね・・・それまではずっと私の心の中に生き続けているから・・・